



2019年4月26日
沖縄電力株式会社

2018年度決算について

1. 販売の状況

2018年度の販売電力量は、電灯については、お客さま数が増加したものの、気温が前年度に比べ夏場は低く、冬場は高めに推移したことによる冷暖房需要の減少などにより、前年度を下回りました。また、電力については、前年度に比べ夏場の気温が低めに推移したことや、他事業者への契約切り替えによる需要減などにより、前年度を下回りました。

この結果、電灯と電力の販売電力量合計は、前年度に比べ4.0%減の74億53百万kWhとなりました。

2. 収支の状況

2018年度の収支の状況について、収入面では、電気事業において、販売電力量の減少があったものの、燃料費調整制度の影響により、売上高（営業収益）は前年度に比べ93億46百万円増（4.8%増）の2,054億81百万円となりました。

一方、支出面では、電気事業において、減価償却費や修繕費が減少したものの、燃料費や他社購入電力料が増加したことから、営業費用は前年度に比べ132億37百万円増（7.1%増）の2,000億38百万円となりました。

この結果、営業利益は前年度に比べ38億90百万円減（41.7%減）の54億43百万円となりました。

また、営業外損益を含めた経常利益は31億60百万円減（37.7%減）の52億20百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は25億22百万円減（40.2%減）の37億51百万円となりました。

なお、当社は、2018年6月1日付で普通株式1株につき1.25株の割合をもって株式分割を行いました。当期の期末配当金については、1株につき30円を株主総会にお諮りし、中間配当金とあわせて1株につき年間60円を予定しています。

3. 連結業績見通し

2019年度の電力需要は、前年度に比べ1.3%減の73億54百万kWhを見込んでいます。

収入面については、電気事業において、電灯電力料の減少が見込まれるものの、他社販売電力料や託送収益の増加が見込まれることや、連結子会社において、外部向け売上高の増加が見込まれることから、売上高は前年度に比べ増加する見通しです。

一方、支出面については、連結子会社において、売上原価の増加が見込まれるものの、電気事業において、燃料費の減少などが見込まれることから、営業費用は前年度に比べ減少する見通しです。

このような状況から、2019年度の業績については、売上高は2,065億円、営業利益は79億円、経常利益は72億円、親会社株主に帰属する当期純利益は55億円を見込んでいます。

別紙：決算の概要

以上

【決算の概要】

■販売電力量

(単位：百万 kWh)

	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	増減	増減率
電 灯	3,140	2,960	△180	△5.7%
電 力	4,621	4,493	△128	△2.8%
合 計	7,761	7,453	△308	△4.0%

■連結経営成績（6年ぶりの増収減益）

(単位：百万円)

	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	増減	増減率
売 上 高	196,134	205,481	+9,346	+4.8%
営 業 利 益	9,333	5,443	△3,890	△41.7%
経 常 利 益	8,381	5,220	△3,160	△37.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,273	3,751	△2,522	△40.2%

■販売電力量見通し

(単位：百万 kWh)

	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)	増減	増減率
電 灯	2,960	3,019	+59	+2.0%
電 力	4,493	4,335	△158	△3.5%
合 計	7,453	7,354	△99	△1.3%

■連結業績見通し（2年ぶりの増収増益の見込み）

(単位：百万円)

	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)	増減	増減率
売 上 高	205,481	206,500	+1,018	+0.5%
営 業 利 益	5,443	7,900	+2,457	+45.1%
経 常 利 益	5,220	7,200	+1,979	+37.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,751	5,500	+1,748	+46.6%